

Dialogue 8 Asking the price -いくらかたずねる-

教室での活動案

アクティビティ名：「千円ぴったり！お買い物ゲーム」

Target Expression: How much is ~? (～はいくらですか?)

※ 学習者用ページにあらかじめ含まれている繰り返し練習や、パート分け練習の後に
行なうほうがスムーズに活動がすすみます。

用意するもの：

- ①お店 3 件（教室の机を 4 つ程度合わせてグループを 3 つ作る）、
- ②品物（カード一枚につき一品、表に品物の名前または絵を書く。
裏には「獲得ポイント数」を書いておく。*値段ではないので注意。
品物の値段はカードには書かない。参加人数の三倍以上用意する。）
- ③品物の価格リスト（はじめは店員役のみに、あとで全員に配布する）
- ④買い物をする人数分のお金(金券)： 各自が百円×10=千円分（画用紙等で作成）

- ① 買い物をするグループ（以下 A グループ）と店員のグループ（以下 B グループ）に分かれます

- ② A グループは 3 件の店を回り、1 店につき 1 つずつ品物を買ひ、全部でぴったり千円になるようにします。品物には値段が書いておらず、価格リストを持っているのは店員だけです。そこで、店員においてある品物の値段をたずねて購入します。

A: Excuse me, how much is this?

B: It's --- yen.

A: I'll take it. （お金を渡す）

B: Thank you.

- ③ 1 件目の店では 1 つたずねるだけで買い物できるかもしれませんが（中には千円以上の品物もある）、2 件目、3 件目は自分の持っているお金と相談しなければいけないので、何度も店員に値段をたずねることもありえます。

A: Excuse me, how much is this?

B: It's --- yen.

A: Oh.... How about this?

B: It's --- yen.

A: I'll take it. (お金を渡す)

B: Thank you.

- ④ 3 件の店で買い物が終わった生徒は、店員役の生徒と役割を交代します。
- ⑤ 全員買い物が終わったら、席に戻ります。
- ⑥ まず各々千円ぴったりかどうか、価格リストでチェック。ちゃんと買い物できていたら 1 ポイント獲得。シールを貼ったり丸をつけたりします。拍手！
- ⑦ 続いてカードを裏返します。書いてあるポイントがもらえます。
最多ポイント獲得者は誰かな？

応用)

- ※ 全員揃わない、という可能性も出てきますが、品物を見せず、箱に入れるかカードの表に箱の絵、裏に品物の絵を書いて、最後にカードを裏返した時 3 種類揃っていたら勝ち！（全部衣料品、全部電化製品、全部おもちゃ、など）という方法もあります。揃わない可能性があるとは言え、揃った子が出たらとても盛り上がるでしょう。
- ※ この場合、お店の人は最初から合うポイントを知っていて、うまく合うように勧めてもらう、という手もあります。会話が高度になる可能性もあるので高学年～中学生向きかもしれません。